

本覺寺杼貝, (37): 44-48, 2002

軟体動物が歌詞に登用された様々なジャンルの日本の曲

久保田 信*

Shin Kubota: Molluscs mentioned in the lyrics of various kinds
of songs in Japan

海洋国、日本は北海道から沖縄まで多種多様な軟体動物が生息し、沿岸から深海まで実に驚くべき多彩さを示している。とりわけ和歌山県の中・南紀は、わが国でも貝類が豊富な海域でよく知られている（本覺寺杼貝, 1-36号、南紀生物, 1-44巻など）。

軟体動物は美味な軟体部が食料となっている他、貝殻や真珠は、アクセサリー、貨幣、お守りなどとして重宝され、一方、美しい貝をモチーフに詩歌や俳句など文学方面に古来より登用されてきた。では、歌（唄）の題材としてはどれほどの登用例であろうか。本稿では、軟体動物自体は勿論、貝殻や真珠、加えて色に使用されたターム（セピア）も含め、様々なジャンルの日本の曲の歌詞に登用された軟体動物を探索した。その結果、下記に示したような曲があった。それらはアイウエオ順で曲名を列挙し、それぞれの登用例を示した（各曲の作曲者や作詞者などは割愛した）。最後に、どのような分類群が歌詞の中で多く用いられているのか、その頻度などにも注意してまとめた。

曲名： 登用された分類群など

哀愁のカサブランカ： セピア色

愛の渚： 貝

アカシアの雨がやむとき： 真珠

雨の中の二人： 真珠

阿南やけんど： 貝、真珠

ALISON： セピア

漁り火恋唄： イカ

海にひとしづく： 真珠、貝殻
海の底で唄う歌： 真珠
海の匂いのお母さん： カキ
おさかな天国： イカ、ホタテ、タコ、アサリ、カキ
女の日本海： イカ
貝殻節＜鳥取県民謡＞： 貝殻
海底少年マリン： 真珠
買い物ブギー： とり貝、赤貝、タコ、イカ
飾りじゃないのよ涙は： 真珠
風の恋唄： 白い貝殻
かたつむり： カタツムリ
北国の二人： 真珠
君と僕： 貝殻
君の名は： 真珠
くじらのバス： イカ
黒の舟歌： わすれ貝
恋じゃなくなる日： 貝殻
恋する瞳： 貝殻
恋の季節： 小さな貝
恋のフーガ： 真珠
恍惚のブルース： 貝
心の窓に灯を： 真珠
西海ブルース： 真珠色した雨
サウダージ： 海の底でもの言わぬ貝
さくら貝の歌： 桜貝（＝この貝、拾いし貝）
サザエさん： サザエ
サザエさん一家： サザエ
サンゴのタンゴ： シャコガイ
潮風のメロデー： 小さな貝殻、さくら貝
塩屋崎： 白い貝殻
城ヶ島の雨： 真珠
下北漁港： イカ
白い渚のブルース： 桜貝
白いパラソル： 真珠
真珠の涙： 真珠

真珠のピアス： 真珠

真珠のピリオド： 真珠

スシ食いねエ！： ホタテ、アワビ、赤貝、ミル貝、タコ、イカ、
小柱、アサリ

ズルい女： 真珠

セイシエルの夕陽： 白い貝殻

セピア： セピア、セピア色

Sepia： セピア色

セピア・あなた・かも： セピア

セピア色の片想い： セピア

セピアの雨： セピア色

セピアの帰り道： セピア

宗谷岬： 渚の貝

時： 巻貝

なみとかいがら： 渦巻き貝殻、桃色貝殻

人魚姫 -mermaid-： 真珠、貝殻

Pearl-White Eve： 真珠の雪

浜でギターを弾いていたら： 貝

浜辺の歌： 貝

釜山海峡： イカ

舟唄： イカ

フレンズ： セピア

僕にさわらせておくれ： 小さな貝殻

Hotel Pacific： セピア

マーメイド： 真珠

岬： 貝殻

ミス・ミステリー・レディ： セピア

美保関潮歌： イカ

木綿のハンカチーフ： 真珠

森のくまさん<アメリカ民謡>： 白い貝殻

You're my treasure ー遠い約束ー： セピア

ゆうこ： 真珠

ルパン3世のテーマ： 真珠

れんげ草： 真珠

んばば・ラブソング： 真珠の貝殻

日本の唄の歌詞に用いられた軟体動物の分類群など

アカガイ
アサリ
アワビ
イカ
貝
貝殻
カキ
カタツムリ
小柱
サクラガイ
サザエ
シャコガイ
真珠
セピア(色)
タコ
トリガイ
ホタテ
巻貝
ミルクイ (=ミル貝)
ワスレガイ

以上のように、軟体動物の特定種を登用した例は、アサリ、サザエ、トリガイ、ホタテ、ミルクイ、ワスレガイの6種のみであった。ワスレガイを除き、これら5種は食用として一般によく知られているので、歌詞に登用されたのだろうが、各種とも登用された曲の数は少なかった。これに対し、貝(8曲)やイカ(10曲)などの総称名や貝殻(15曲)、および真珠(26曲)は、様々なジャンルの曲にわたり使用されていた。一方、セピア色の登用も12曲と、よく用いられていた。

全体としては、少なくとも9種の二枚貝類(アカガイ、アサリ、カキ、サクラガイ、シャコガイ、トリガイ、ホタテ、ミルクイ、ワスレガイ)、3種の腹足類(アワビ、カタツムリ、サザエ)、2種の頭足類(イカ、タコ)の計14種が登用されており、いずれもごく普通にみられる種であっ

た。軟体動物の残りの分類群であるツノガイ類、ヒザラガイ類、ウミウシ類、カセミミズ類、ネオピリナ類、およびアンモナイトなどの絶滅した化石種の登用例は見つからなかった。

* 久保田 信

email: shin@seto.kyoto-u.ac.jp

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町臨海 459

京都大学大学院理学研究科附属瀬戸臨海実験所

Fax: 0739-42-4518

Tel: 0739-42-3515

<http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/shinkubo/index.html>

Shin Kubota D. Sc

Associate Professor, Seto Marine Biological Laboratory,

Graduate School of Science, Kyoto University,

Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, JAPAN
